Catch the WAVES！

新潟県立佐渡中等教育学校
学校だより 令和5年度3月号
HP:http//www.sado-ss.nein.ed.jp

令和6年3月22日（金）　2学期終業式　校長講話

おはようございます。今ほど、各種表彰がありましたが、はんが甲子園で最高賞の文部科学大臣省受賞、快挙ですね。海外研修帰国直後にもかかわらず、5年生の川上さん、鈴木さん、渡嘉敷さん、よく頑張りました。おめでとうございました。

全員が登校する日は、本日が最後となります。まず今年度はコロナ禍が収束、猛暑・酷暑、暖冬、そして地震と、いろいろあった一年、よくここまで頑張った、と褒めたいと思います。

3月に入り1日は卒業証書授与式でした。コロナ禍が明け、4年ぶりに卒業証書を一人一人に授与することができ、卒業生、保護者、私たちも感無量でした。

3日に入学者オリエンテーション、翌週6日から従来通り2年生が関西方面への修学旅行、そして7日からは4・5年生合同ですが、シンガポール・マレーシアへの海外研修旅行が再開されました。帰国後の4・5年生の凛々しい表情から、異文化に触れ、多様な価値観を感じられた実りある研修旅行だったと感じています。

先週15日の卒業生受験報告会では、佐渡中等6年間の頑張りで見事受験を突破した先輩たちから進路実現のためのノウハウを聞くことができましたね。今後の学びに役立ててほしいです。卒業生も逞しく見え、新生活での健闘を祈ります。

この一年間は、皆さんにとってどんな年だったでしょうか。各自の目標はどの程度達成できたでしょうか。この終業式を機に、次の新しい年度に向けて反省と展望を持つ時間を、自分の中できちんと持ってほしいと思います。

学習、部活動、生徒会活動、生活習慣について、自己評価することが将来のために必要です。進級して、各学年の目標に応じた意識と言動が不可欠です。新入生も入学してきます。リーダーとして後輩たちの模範となり、リードしていく義務が生じるとともに、自己の進路について具体的に対応していかねばなりません。

今日は、前期生は2学期の、後期生は1年間の学習成果等が記された「通知表」が渡される締めくくりの日です。

まだまだ家庭学習時間が少ないのが課題です。学習のモチベーションを上げるには明確な将来の夢、その実現への計画です。この1年間の学習への振り返りを行い、反省と具体的な改善をして来年度へ臨みましょう。

さて、今年度最後の校長講話となります。皆さんは「あいうえおん」の話を知っていますか。「あ・い・う・え・お」の後に「ん」を付けるというお話。人によって解釈や当て字は異なりますが、皆さんなら、「あん、いん、うん、えん、おん」をどのように解釈しますか。今日は、「安（案）・陰（因）・運・縁・恩」について、お話をします。それぞれの文字、意味合いが繋がっていると感じます。

「安」全や「安」心というのは、私たちが生きている上で求めようとする最たるものかもしれません。戦争、大災害等がある今だからこそ「安」らぎが必要です。

「案」とは、アイディア、新しい発想のこと。変化や困難に対応していくためには斬新なアイディア、工夫が必要。考えて学び続けていくことが不可欠です。

「陰」ながら努力するからこそ、「安」らぎが得られるのかもしれません。

「因」とは、もととなること。結果を得たいのであれば、原「因」を探らねばなりません。原因を分析し、原因を改善、克服していきましょう。

「運」が良いとか悪いとか言いますが、運は「はこぶ」とも読みます。じっとしているだけではだめ。自分で動く。また、運ぶ物を持っていなければ良いも悪いもありません。自分の持っている物を運んでいけば、何か良い結果が得られるかもしれないし、どこかから良い物が運ばれてくることもあるでしょう。みなさんにとって大切な物

を大切な人へ運んでください。そうすれば、必ず運は巡ってきます。

「縁」は、そのように自ら行動することで得られるかもしれません。縁は「ふち」とも読みますし、自分というものは元来自分の人生の中心ですから、縁の方へ赴かなければ誰かと出会って手を取り合うことはできません。心を開き、心の壁を取り払い、自ら歩み寄っていけば、それが「縁」となります。

「恩」とはそうして私たちが関わり合い、ともに生きていられることに感謝すること。そうできればきっと心は豊かになります。先程の「因」の下に「心」がついたら「恩」。恩人とは、人々の心に影響を与える原因をもたらしてくれる人。「因」に心が添えられることに深い意味があり、深ければ深いほど絆も深いと考えます。

さて、皆さんならどんな「あいうえおん」を考えるでしょう。

今日はその中で最後の「恩」、「恩送り」についてお話をします。「恩返し」は誰かの恩に報いること、「恩知らず」は受けた恩を忘れること、「恩着せがましい」は恩を押し付けること。では「恩送り」という言葉を知っていますか。

この聞きなれない言葉を知ったのは、映画『Pay It forward』を見たときで、英語の教科書の題材にもなりました。「人から受けた厚意をその相手に対して恩返し(pay back)するのではなく、別の誰かにその恩を送る(pay it forward)ことで善意を広げていくこと」という主旨です。

私たちは、日々生かされています。その「生」、あるいは「命」は、その「恩送り」によって脈々と親から子へ、あるいは職場や部活動、さらには佐渡中等の先輩から後輩へ何世代にも渡って時代を超えて連なっています。それだけではなく、受けた恩を誰かに手渡すことで私たちは互いに生かし合い、支え合っているのです。

「今を生きる」とは、「想いのつながり」「命のバトンリレー」のようなものではないでしょうか。

しかし、「恩送り」ができるには恩を感じるしなやかな感性がなければなりません。他者に対する適度な緊張感（親しき仲にも礼儀あり）、柔軟な感受性（善悪の判断や感謝）、豊かな想像力（気遣いや察する力）がなければ、他人から受けた行為に感謝することはできないでしょう。その感覚が昨今の日本では希薄で、様々な事件があることからも御存知のように、他者に対する心の距離感覚が麻痺した出来事が蔓延しています。

Give & Take ならぬ、Give & Give。言い換えれば、利他の心を持つということ。つい、「・・・してやったのに」と思いがちで、なかなか難しいこと。しかし、見返りを求めることなく、「自分のことは後回し」「自分はいいから」という思いで受けた恵みを少し上乗せして他者へ送り続けること、自分が培ってきた知識、能力、経験等を世のため人のために次世代へ還元していくことが、社会をよりよく変えていくことではないか、と自戒を込めて感じています。

グローバル化が進む中、まずは足元の小さな心掛けや言動が、周囲の環境を変え、安全・安心、恒久的な平和となり、日本を、世界をも変えていくのではないかと考えます。全校生徒の皆さんには広い視野、多面的視点で、利他の心をもち、世のため、人のため、社会に貢献する人になってもらいたいと考えています。

今年度の総括、振り返りを踏まえ、校長としてよく頑張った全校生徒の皆さんに、その皆さんを指導・支援してくれた先生方に、そして家庭や地域で皆さんを見守ってくださった保護者や地域の皆様から多くの「恩」恵を受けたことに心から感謝します。

今日は、「安（案）・陰（因）・運・縁・恩」について、特に「恩」、「恩送り」について話をしました。周囲から支えられているということ、他者理解を深め、利他の心、感謝の気持ちを忘れず、お互いを思いやり高め合い、フォローし合える雰囲気となれるよう期待しています。

このあと、離任式があります。離任される先生方からの「最後の授業」となります。春休みはリフレッシュをしてください。令和６年度、佐渡中等がさらに生まれ変わって進化し、新たな学校づくりに全力を注いでいきたいと考えています。そして、「佐渡中等へ来てよかった」と、一人でも多くの生徒が感じてくれることをめざしていきます。４月８日始業式には気力、体力の充実した皆さんに再会したいと思います。